働く

生活　日　月　火　水　木　金　土
家族
健康
介護・シニア
家計
子育て
衣食住

天職ですか

フレンチレストラン接客

深津（ふかつ） 茂人（しげと） さん（29）

感動と満足を提供

神戸港を一望する「ホテルラ・スイート神戸ハーバーランド」（神戸市）のフランス料理レストラン。メートル・ド・テルの深津茂人さんが、赤と白の別や渋味などの好みを聞いてワインセラーから選んだ一本をグラスに注ぎ、産地や特徴を説明する。

メートル・ド・テルはフランス料理の接客の専門職。注文を取って料理を運ぶだけでなく、メーンの若鶏の丸焼きは、客の前で丁寧に切り分けて皿に盛り付ける。

予約電話の受け付けも重要だ。名前や人数、予算だけでなく、「何かの記念ですか？」などと質問する。「妻の誕生日」「息子の進学祝い」といった答えから年齢などを推測し、料理を提案することもある。

生まれ育った愛知県豊田市の高校に入学後、友人に誘われて始めたレストラン接客係のアルバイトが、興味を持つきっかけだった。「おいしかったよ、ありがとう」という客の反応が、何よりもうれしかった。

卒業後は高級ホテルのレストランへの就職を見据え、名古屋市内の専門学校へ。二十一歳で市内のホテルに就職したが、二年間は調理場からホールの手前に料理を運ぶだけ。客の前に立つことはなかった。「ホールに出るにはどうしたらいいですか」。休憩中に尋ねた先輩からの助言は「資格を取ってみたら」。風味や食感、切り分け方などあらゆる知識が必要なチーズの民間資格を取得すると、「あのお客さまの食後のチーズを担当してみろ」と指名された。

二十七歳で豊田市のレストランに移り、昨年十一月にはサービスの腕前を競う全国大会に出場し、八十七人の中から予選を突破。決勝進出者十六人で最年少だった。そんな活躍が目に留まり、今年九月に現在のホテルに移った。

多くの人にとって、フランス料理店に行くのは特別なとき。「期待を上回る料理とサービスを提供し、感動させるのが仕事」と説く。帰り際に「どのレストランにしようか迷っていたけど、ここにお願いしてよかった」と喜ぶお客の笑顔は最高。そんな笑顔を与えたのは自分だと感じる瞬間が何よりのやりがいだ。

文・写真　諏訪慧

ワインを手にする深津茂人さん。客に出す料理をめぐりシェフと意見をぶつけ合うこともあるという＝神戸市中央区で

※働く人に仕事の魅力や、やりがいをたずねる「天職ですか」を毎月第1、3、5週、山田亮さんの「楽家事」を第2、4週に掲載します。

あすの紙面

映画「うまれる」の続編
3組の家族の生と死描く

納得できない！ くらし調査隊
052(221)0
chousa@chunichi.co

就労がすべてじゃない

女性活躍ってなんですか

生き方認めて

を経済成
を臨時国
を奨励さ
えて家庭
として期

待されて…。女性の〝活躍〟って何なのか。国に決めつけられる前に、自分にとっての「生き方」を大切にしたい。そんな女性たちの声を紹介する。

（福沢英里）

「税金を納めてない自分はどこか肩身が狭かった」―。東京都練馬区の樋熊（ひぐま）麻子さん（四〇）は、主婦であることを恥じていたのは違うと今では思う。会社員の夫と三人の子と五人暮らし。大学卒業後、企業で販売促進の仕事を夜遅くまでこなしていたが、十四年前に第一子出産を機に退職。夫の帰宅は遅く、必然的な決断だった。

再就職を考えなかったわけではない。三人目を授かる前、少しでも家計を助けたいと保育所の空きを調べたが、フルタイムの正社員でも利用できない現状を知った。無認可保育所も探したが、六万円以上する保育料に「私が働くのは今ではないんだ」と納得させた。

その後、三人目を妊娠。長男が十歳になり、学校で褒められることが増えるなど、その成長ぶりに、まさに子育ては人材育成だと手応えを感じた。「家庭こそ社会の第一線、私は社会から降りたわけではない」と思えば吹っ切れた。

母親の役割は幅広い。家計をやりくりし、家族の健康と暮らしを守る。PTA役員や地域の付き合いを通し、地域の子の成長にも関わる。人から求められ、人の役に立つことを仕事と言うのなら「社会の根っこを作る『お母さん仕事』に転職や起業への支援も

再就職の支援機関は各開設され始めている。

「もっと主婦は自信を持っていい」と言は、今春に再就職し屋市のパート中村真（四〇）。再就職の面た言葉は、「十三年ンクがあってすみまだった。

二児の母親として、

女性活躍推進　国の主な取り組み

- 企業に管理職を増やす目標設定などを義務づけ
- 主婦の再就職支援
- 非正規労働者の待遇改善
- 妊娠から子育てへ切れ目のない支援
- 母子家庭への支援
- 保育所の待機児童ゼロを目指す

くらし歳時記

●柿のドライフルーツ

年
と
ぞ
月
若
合
薫
い
濃
る
干
ば
し
か